

第3学年総合学習指導案

下関市立養治小学校 教頭 瀧口 稔

求める子供の姿

仲間とともに生み出した問いの解決に向けて、切実な思いや願いをもって人々と関わる中で、海響館のもつ魅力を伝えるために今できることを考え実践する子供

単元名 みんなで応援！～来て！見て！知って！海響館

1 本単元と求める子供の姿について

本学級の子供たちは、理科「しぜんのかんさつ」の学習において、植物や昆虫の観察を通して、生き物や自然環境への興味を高めている。また、社会科の学習を通して、ふるさと下関市の様子について多くの子供が関心を示している。このような子供たちが、海響館で働く人々や飼育・展示されている生き物に繰り返し関わっていく中で、海峡の街・下関を象徴する海響館の魅力に気付いたり人々と協働して課題を解決したりすることは、人々や社会への関わり方を考える大切な学びになるものと考えられる。

本単元は、海響館が社会教育施設（博物館）として有する人的・物的財産を学習の中で活用することができる「海響館が提案する海洋教育プログラム」を応用した実践である。その目的には、『児童が小学校の授業を通して、水族館の多様な利用方法を学び、下関市民の生涯学習の場としての水族館の利用促進を図る』とある。そこで本校としても、総合的な学習の時間全体計画の第3学年の内容に「養治の町じまん（全60時間）」の単元があり、海響館と協働して学習を展開することで、未来社会を切り拓く確かな資質・能力が育成できるのではないかと考え、新たな学習プログラムを開発することにした。

単元の導入で、下関市の魚・鳥・動物に関心をもった子供たちは、それらの生き物を飼育している市立しものせき水族館海響館の学芸員から、海響館を訪れる下関市民の人がとても減ってきているとの話を聞き、フグに着目して海響館のために何かできることがないか考えていきたいとの思いをもつ。その後、海響館でフグの展示水槽や標本を観察し、フグの種類や特徴について調査活動を行うとともに、フグのもつ魅力について考える。

続いて、街の中にあるフグに関する調査活動を行い、下関の人々がフグに対してどのような思いをもっているのかを捉え、下関とフグとのつながりについて明らかにしていく。さらに、下関のフグを取り巻く現状と課題について漁業者や市場関係者にも話を聞き、人々の生活とフグとのつながりについて考える。その後、下関のフグに関連した民芸品づくりに取り組んでいる人々も取材する。具体的には、民芸品であるふぐ提灯づくりを手掛けている会社と安岡ふく凧保存会の方々を招聘し、フグに対する思いや願いを語ってもらう。

こうした学びを経て、どうすればもっと下関の人たちが海響館に足を運んでくれるのか、下関のフグにより愛着をもたせることができるのか、解決に向けた取組を計画し実行に移していく。その際、本校の6年生にも協力を要請し、助言を受けたり共に活動したりする場を繰り返し設定する。6年生の協力の下、様々なプランを思い描いた子供たちは、その計画を

イラストレーター、デザイナー、色鉛筆作家などの専門家に直接伝える。その際、専門家に下関のことをどう思っているのか、海響館に地元の人たちが来てくれるためには何が必要なのかを語ってもらうことで、地元の人たちからも愛される「海響館」の今後の方向性について具体的に考え共有することができるようにする。その後、「みんなで応援！～来て！見て！知って！海響館プロジェクト」をスタートさせ、今できることに取り組んでいく。

このような学びをより効果的に進めていくためには、子供自身が対象と繰り返し関わる中で、海響館を取り巻く様々な人的・物的環境との協働的な取組の場を創り出していく必要がある。また、仲間と互いのもつ活動へのイメージを学習展開に応じて共有させた上で、連続的・発展的な問いを生み出し、その問いの解決を図っていけるようにすることが大切となる。

そこで、以下のような支援を具体化し、本単元で求める子供の姿を導き出したい。

- 単元の導入で、下関市が定める市の魚・鳥・動物についてそのイメージを交流した上で、海響館の学芸員に海響館の現状だけではなく、職業観や人となりも語ってもらうようにする。さらに、下関を象徴する魚であるフグへの関心を高めることで下関市内からの来館者が増えるよう手を貸してほしいとの願いも伝えてもらうことで、子供たちが強い問題意識をもって主体的に学びに立ち向かうことができるようにする。
- 活動の中で語られた言葉や振り返りに書き表されている子供の気付きを全体に紹介するとともに、活動の場において見取った切実な問いをもった子供に、その時の思いや考えを語るように促す。そうすることで、自分たちにとってより意味や価値のある問いを、仲間との対話の中で見出していくことができるようにする。
- 教室と海響館をつなぐオンライン授業や海響館が有する写真画像や動画映像による学習環境の創出、海響館HPとの連携など、今ある情報機器環境を最大化し活用を図ることで、子供たちが対象と繰り返し双方向的に関わることができるようにする。
- 問いの解決に向けて話し合う際に、学芸員や専門家から必要な情報を得たり助言を受けたりする場を繰り返し設定する。その際、妥当性や公共性、実現可能性を子供たちに提示してもらうことで、社会の一員としてあるべき活動の方向性を見出せるようにする。
- 単元の終末に、海響館において下関市民に向けた「みんなで応援！～来て！見て！知って！海響館展」を開催し、子供たちの学びの成果を発表する場を設けるとともに、「海響館こども学芸員証」を海響館の館長から授与してもらう場も設定する。さらに、同展を市立中央図書館と下関駅ビル内でも開催することで、達成感や成就感を味わわせるとともに、社会の一員としての意識をより高められるようにする。

2 目 標

- 海響館のもつ魅力に気付き、その魅力を伝えるために今できることを考え実践できるようにする。
- 海響館に多くの下関市民の人たちが訪れることをめざして、仲間と協力して話し合ったり、専門家とともに活動する喜びを味わったりすることができるようにする。

3 評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
<p>①下関市には、海の生き物をまちづくりに生かした施設があり、それらを守る人々がいることを理解している。</p> <p>②調査活動や情報収集の手順を身に付け、必要に応じて使い分けている。</p> <p>③活動に伴う達成感や成成感は、対象や社会と関わり続ける探究的な学習をしてきたことの成果であると気付いている。</p>	<p>①自分の関心から課題を把握し、その解決に向けて追究している。</p> <p>②調査活動において行う質問の内容や方法を、自ら決めている。</p> <p>③公共性、妥当性、実現可能性などの視点をもって、課題の解決に向かっている。</p> <p>④活動を通して学んだ海響館の魅力を分かりやすくまとめ、表現している。</p>	<p>①課題の解決に向けて、仲間や専門家の人々の考えのよさを受け入れながら、自分の意思で探究活動に取り組もうとしている。</p> <p>②自分と異なる友達の考えや専門家の意見を生かしながら、協働して課題の解決に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>③海響館のもつ魅力を伝えるために、今自分ができるところを見付けようとしている。</p>

4 指導計画（38時間） が本時

学習活動	子供の意識
第1次 海響館のフグの調査活動を行う （7時間）	
評価規準 知識・技能…①・② 思考・判断・表現…① 主体的に学習に取り組む態度…①	
<input type="checkbox"/> 単元全体の学習の流れを知る (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下関市の魚といえば、やっぱりフグだと思うよ。でも、鳥は何だろう。ハトでもないし、もしかしたら、海がたくさんあるからきっとカモメだよ。次は、下関市の動物だって。友達はサルとかイノシシとか言っているけれど、よく分からないな。 ・ 下関市の魚も鳥も動物も、全部そろっているのが海響館なのだね。海響館の井上さんと園山さんは、下関に住んでいる人たちがもっと海響館に来てほしいと願っているのだね。特に、フグは下関とつながりが深い魚なのでいろいろなことを知ってほしいとのことだよ。そういえば、この頃あまり海響館には行っていないなあ。もっとみんなで、海響館のフグのことを応援しないと。ぼくたちの力で、下関の人たちに伝えていきたいな。
<input type="checkbox"/> 海響館に、どのようなフグが展示されているのか調査し、フグの持つ魅力を考える (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・ まずは、海響館のホームページから、どんな生き物がいる水族館なのか調べてみよう。やっぱり、フグの種類は世界一多い水族館なのだね。珍しいフグがたくさんいるけれど、南の海にしかすんでいないフグを、どうやって海響館まで運んだのかな。えさは、何を食べているのだろう。分からないことが、次から次に出てきたよ。学芸員の井上さんと園山さんに、オンラインで質問してみよう。 ・ 海響館にやって来たよ。フグを展示している水槽には、どれも珍しいフグが泳いでいるよ。やっぱりトラフグは大きいなあ。もっと大きなマンボウもいるよ。井上さんと園山さんの話は、どれも驚くことばかりだね。家の人にも教えてあげたいな。普段は見ることができない標本まで見せてもらったよ。でも、どうしてフグは、様々な色や形をしているのかな。生き物の形には、生き残るための工夫や知恵がつまっていたのだね。もっとフグのことを調べてみたいな。
第2次 下関とフグの関係について調査し、自分たちにできることを考え実践する(25時間)	
評価規準 知識・技能…①・② 思考・判断・表現…②・③ 主体的に学習に取り組む態度…②・③	
<input type="checkbox"/> 街の中に、どのようなフグがあるのか、また下関の人々はフグに対してどのようなイメージをもっているのかを調べ、下関とフグとのつながりについて考える (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 街の中にどんなフグがあるのかを調べるために、街の探検に出かけたよ。見て、マンホールのふたにフグのイラストが描いてあるよ。唐戸市場のガラスに、大きなフグがいるよ。本物のフグも、いけすの中に泳いでいるよ。フグのヒレがたくさん干してあったよ。奥に、フグの形をした飾り物も見えたよ。亀山八幡宮の階段を上ると、世界一のフグの銅像があったよ。さすが世界一の大きさだね。街を歩いている人たちに、フグのイメージを聞いてみたよ。人に質問するのは緊張するけれど、いろいろな答えが返ってきて、とても楽しかったよ。

<p>□下関のフグを取り巻く現状や課題を知る (7)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は、フグ漁師さんに来ていただいたよ。フグの漁は、思っていたよりも難しいのだね。延縄という方法でフグを釣り上げるのだね。漁師さんは、釣りの準備が大変だけれど、網を使う方法よりフグの体を傷つけないので、きれいなまま市場に出荷できるそうだよ。でも、漁業に携わる人たちの高齢化や、漁場が変化してフグの漁獲量が減ってきていることなど、たくさん問題もあるのだね。中でも一番気がかりなのは、魚を食べる人が減ってきていて、感染症の拡大で外食を自粛しているので高級なフグがますます売れなくなっていることだね。下関からフグが消える日がきたら大変なことだね。もっと下関の人たちに、街の自慢のフグのことを知ってもらえるよう、宣伝しないといけないね。 ・この前の街探検で見つけた、ふぐ提灯を作っている酒井商店にやって来たよ。店の奥の工場には、膨らんだフグがたくさん置いてあるね。こうやってふぐの提灯を作るのだね。「ふぐ」ではなく、幸せの福が訪れるように「ふく」という呼び名をつけて、可愛いらしい姿に仕上げたので、全国から注文が来ているのだから。でも、うちにはないから、今度家の人に買ってもらうかな。酒井さんは、下関のことが大好きなのだね。もっと地元の人にも、下関のふくのことを誇りに思ってもらいたいと考えているのだね。 ・安岡ふく凧保存会の人たちと、オンラインでお話できたよ。地元の凧づくりの名人だった安本さんが、昭和39年にふく凧を考えたのだから。安本さんも、下関のふくのことを多くの人たちに伝えたかったのだろうね。海響館でも、オリジナルのふく凧づくりを行ったことがあるそうだよ。今度、ぼくたちも挑戦してみたいな。
<p>□自分たちにできることを考え、実践する(4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・下関市に住んでいる人は海響館の入館料金が半額になるから、そこをみんなにお知らせすれば、もっと海響館に行ってくれる人が増えるのではないかな。 ・確かに。でも、それよりもふくのファンを増やした方がよいと思うよ。サッカーチームを応援するサポーターの人たちが何度も試合を見に行くみたいに、海響館のふくを応援してくれる人たちを増やしてみたらどうかな。 ・そうだね。でも、どうすればみんなが応援してくれるようになるのかな。まずは、養治小学校の中で宣伝してみるのはいかがでしょうか。そういえば、今、6年生を中心に来年の養治小創立150周年に向けた養治小マスコットを全校で考えているけれど、いつも下級生のお世話や学校のために進んで仕事に取り組んでいる6年生の人たちに協力してもらえば、うまく進むのではないかな。6年生にお願いに行ってみようよ。

<p>□表現や発信の仕方について専門家からの助言をもとに、表現物にまとめる (8)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生の人たちが、たくさんのアイデアをくれたよ。ぼくが一番よいと思ったアイデアが、海響館のCMを作って全校にオンラインで配信するというものだよ。他にも、養治小のホームページにふくコーナーを作って下関の人たちに見てもらおうというアイデアや、「フグズ」というグッズをつくろうというアイデアももらったよ。これから、養治小のみんなに海響館のすばらしさを伝えれば、家の人と一緒に海響館に行ってくれる人がきっと増えると思うよ。 ・私たちの考えを井上さんと園山さんに伝えたら、それはよいアイデアだねと言われたよ。それに、海響館の制服をデザインした人やイラストレーター、色鉛筆作家の人たちに私たちの取組を紹介してくれるのだった。とても楽しみだね。 ・デザイナーや色鉛筆作家の方から、すてきな作品を見せてもらったよ。色も形も絵もどれも工夫してあったよ。養治小ホームページのフクコーナーにも、こんなすてきな絵を入れたいね。 ・井上さんと園山さんが、海響館が作ったテレビCMやポスターを見せてくれたよ。やっぱり本物のふくの映像はかわいいし、ずっと見ていたくなるね。CMは、もっとふくが映る場面を増やした方がよいね。それに、長い言葉より短い言葉で伝えた方が、相手に分かりやすく伝わるね。「フグズ」のふくは、もっと膨らませるとかわいい仕上がりになりそうだね。 ・6年生に手伝ってもらって出来上がった作品を、井上さんや園山さんに見てもらったよ。とてもよくできているねと褒められたよ。それに、海響館だけではなく、ドリームシップやふくふくこども館にも展示してくれるそうだよ。いよいよ、「みんなで応援！～来て！見て！知って！海響館プロジェクト」を始めろぞ。6年生の人たちと一緒に、これからもどんどん海響館の宣伝をしていこうね。
---	---


第3次 これまでの学びを振り返り、「海響館こども学芸員」として活動する (6時間)

<p>評価規準 知識・技能…③</p>	<p>思考・判断・表現…④ 主体的に学習に取り組む態度…③</p>
<p>□「みんなで応援！～来て！見て！知って！海響館展」を開催し、これまで学んだことを発表する (3)</p> <p>□海響館こども学芸員として活動する (3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いよいよ海響館で、ぼくたちの作品展を開くのだね。海響館の石橋館長さんからぼくたちに、サプライズとして「海響館こども学芸員証」をいただいたよ。これまでのぼくたちのがんばりを、石橋館長さんはじめ海響館の人たちがずっと見てくれたのだね。家に帰ったら、家族のみんなに自慢できるね。 ・ふくの展示水槽の前で、来館者の人たちに下関のふくについて説明したよ。うまく説明できないこともあったけれど、お客さんからたくさん褒めてもらって、とてもうれしかったよ。 ・井上さんや園山さん、たくさんの方々のおかげで、とても楽しい学習ができたよ。これからも、自分ができていることを続けていって、みんなに喜んでもらえるようにがんばりたいな。

5 本時案 【令和3年6月25日（金） 9：20～10：05 養治小学校体育館】

(1) ねらい 下関市と関わりの深い生き物について仲間と話し合ったり専門家の話を聞いたりすることを通し、これからの学習の見通しをもつことができるようにする。

(2) 学習過程

学習活動／子供の意識	支 援
<p>① 下関市の魚・鳥・動物について話し合う (10分)</p>	<p>○A児のような子供に</p>
<p>学習内容 ・下関市の取組(知)</p>	<p>そう考えた根拠を語るように促すとともに、</p>
<p>・ 下関市の魚といえば、やっぱりフグだと思うよ。 ・ 下関は周りを海に囲まれているから、鳥はカモメではないかな。 ・ 市の動物って、イノシシかな。サルかな。えっ、もっと大きな生き物で給食にも出されるのだから。フグはよく出されるけれど。 A 大きな生き物で、給食にも出される下関に関係のある動物といえば、クジラではないかな。クジラの竜田揚げは美味しいよね。</p>	<p>に、下関市内にあるクジラに関わりのある場所の写真を提示することで、フグ以外にも下関には地域社会に根付いた食文化があることを認識できるようにする。</p>
<p>② 海響館の方の話を聞き、これからの活動の見通しをもつ (25分)</p>	<p>○海響館の井上学芸員と園山学芸員に小学生の頃の話や、下関についての印象などを語ってもらう場を設定する。さらに、</p>
<p>学習内容 ・海響館の生き物への関心と自身の関わり方(思)</p>	<p>B児やC児のような具体的な学習の見通しをもっている子供の考えを取り上げ、全体に紹介することで、今後の活動の見通しをより明確にもつことができるようにするとともに、海響館のフグに焦点を当てた取組が展開できるようにする。</p>
<p>・ 下関市の魚、鳥、動物が全部そろっている場所は、海響館だったのだね。今日は、学芸員の井上さんと園山さんが来てくれたよ。 ・ 井上さんも園山さんも、子供の頃から生き物が大好きだったのだね。水族館で働くことを夢見て、勉強にも研究にも力を入れて取り組んでこられたのだね。お二人とも遠くから下関にやって来たけれど、海響館のことも、下関のことも大好きなのだから。 ・ 市の動物のクジラの仲間がイルカなのだね。イルカも、市の鳥のペンギンも大人気だけれど、海響館は世界一多くのフグを展示している水族館なのだね。下関といえばフグなのに、地元に住む人たちがフグに興味をもって調べる姿も見かけなくなったとのことだよ。しかも最近、海響館に来る下関の人たちの数が減ってきていて、井上さんも園山さんもとても残念に思っているのだから。</p>	<p>○振り返りの場でD児のように活動への期待感を表出した子供の考えを全体に紹介することで、より目的意識をもって探究活動に向かうことができるようにする。</p>
<p>海響館のフグのために、クラスで何ができますか。</p> 	
<p>B みんなで、海響館のフグを宣伝したらよいと思うよ。</p>	
<p>C 海響館のフグに興味をもてるよう、キャラクターを作ったらよいと思うよ。でも、フグのことはあまり分からないから、これからくわしく調べていきたいな。</p>	
<p>③ 本時の学びを振り返る (10分)</p>	
<p>学習内容 ・探究活動への意欲(態)</p>	
<p>・ 下関市の鳥はカモメだと思っていたけれど、ペンギンだと知って驚いたよ。それに、マンボウがフグだとは思わなかったよ。 D 総合の学習は初めてだけれど、海響館の井上さんや園山さんと出会えて本当にうれしかったよ。これから、海響館のフグのことをみんなでしっかりと調べて、養治小だけではなく、下関に住む人たちにも海響館のフグのことをたくさん知ってもらえるように、がんばって応援していきたいな。</p>	

6 板書計画

6/25(金) 3年 総合

めあて 海きょう館のフグのために、クラスで何ができますか。

下関市の魚

- ・フグ?
- ・アンコウ?

下関市の鳥

- ・カモメ?
- ・ハト?

下関市の動物

- ・サル?
- ・イノシシ?

せんでん→養治小のみんなへ
フグのキャラクターづくり

ふりかえり

- ・養治小だけではなく、下関の人たちにフグのことをつたえたい。